

授業 科目名	精神神経科学総論 (Psychiatry: General remarks)	履修年次: 必修:理・作2年	単位数: 1単位30時間	担当教員名: 三浦伸義[医師] (非常勤講師室)
		コード:RBB213		
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識 倫理観とプロフェッショナリズム 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本授業では、就職した場合に必要な知識を得ることを目標に、以下のテーマで講義を進めていく。 1 日本の精神医療の歴史を学び、現在の日本が直面している様々なメンタルヘルスの問題について理解するようになる。 2 精神医学領域の基本的な症状、検査法、診断基準について学び、かつ基本的な治療法について理解し、説明できるようになる。 3 精神保健福祉法について、その概略を理解する。かつ法の精神に基づき、現代日本の精神医療、精神保健に関連する分野で各職種が果たしている役割を実感する。				
〔授業の概要〕 精神神経科学総論は以下の項目を系統的に講義する。現在先進国で主流となっている生物学的精神医学に立脚しつつ、精神現象を生物・心理・社会・倫理的な観点から複眼的に理解できるようにする。本授業は三浦伸義が担当する。精神科医師実務経験により、精神神経科学の講義および精神医療に関する学習の支援を行う。 キーワード:精神保健、精神障害、精神保健福祉法、向精神薬、精神療法				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	
第1回	4/12	ガイダンス	履修の準備、受講に関する注意事項など	
第2回	4/12	精神医療の必要性	精神医学・精神医療の基礎	
第3回	4/26	精神医学の歴史	日本あるいは世界における精神医科学の変遷	
第4回	4/26	〃	〃	
第5回	5/17	精神医学の現状	世界標準の診断基準、および症候、検査について	
第6回	5/17	〃	〃	
第7回	5/31	精神疾患各論	精神疾患それぞれの特徴や問題	
第8回	5/31	〃	〃	
第9回	6/14	精神医療を取り巻く法律	精神保健福祉法とその関連法について	
第10回	6/14	〃	〃	
第11回	6/28	精神疾患の治療	精神疾患の治療法(薬物や精神療法など)の概要	
第12回	6/28	〃	〃	
第13回	7/12	精神医療と社会の関係	社会におけるメンタルヘルスの諸問題について	
第14回	7/12	〃	〃	
第15回	7/26	まとめ	授業全体を通じたまとめ	
履修条件	特になし			
予習・復習	予習としてテキストを熟読のこと。復習にはノートの見直しを推奨。			
テキスト	精神看護学概論 精神保健 メヂカルフレンド社 第6版			
参考書・参考資料等	指定しない。授業の中で適宜紹介する。			
学生に対する評価	定期試験(50%) 課題(36%) 日ごろの学習態度(14%)により、総合的に評価する。			

授業 科目名	精神神経科学各論 (Clinical Psychiatry)	履修年次： 必修：作2年 選択：理2年	単位数： 1単位 30時間	担当教員名： 杉澤 淳子 [精神神経科医師] (非常勤講師室)
		実務経験のある教員による授業科目		
[DP] コミュニケーション能力 実践に必要な知識 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 作業療法・理学療法の対象となる精神障害について、症状、疫学、原因と背景、診断、治療や支援の概要を理解し、実務上必要となる基礎知識を習得する。				
〔授業の概要〕 精神障害は、現代社会の臨床現場で遭遇する頻度の高い疾患である。講義および演習形式により、理学療法、作業療法を行うにあたって、必要な、それぞれの精神障害についての疾患特異的な各論的知識を習得する。統合失調症、うつ病・双極性障害などの気分障害、不安障害、身体表現性障害、適応障害、摂食障害、認知症、物質依存、パーソナリティ障害などの代表的な精神疾患の診断、評価方法、治療(薬物療法、認知行動療法など)の概要について、理解することを目的とする。				
キーワード：精神、発達、心理、福祉、神経				
〔授業計画〕				
回数		テーマ	内容	
第1回	10/2	精神医学総論1	精神科概要、外来・入院治療の現状	
第2回	10/9	精神医学総論2	精神科概要、外来・入院治療の現状	
第3回	10/16	精神医学総論3	精神科概要、外来・入院治療の現状	
第4回	10/23	特別講義(理学療法士)	理学療法士による現場の声	
第5回	10/30	特別講義(作業療法士)	作業療法士による現場の声	
第6回	11/6	器質性精神病1	アルツハイマー型認知症、脳血管型認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症	
第7回	11/13	器質性精神病2	せん妄、身体疾患による精神症状	
第8回	11/20	気分障害	うつ病、躁うつ病	
第9回	11/27	統合失調症	統合失調症	
第10回	12/4	神経症1	不安障害、パニック障害、強迫性障害	
第11回	12/11	神経症2	急性ストレス障害、PTSD、適応障害、身体表現性障害、解離性障害	
第12回	12/18	人格・行動の異常1	境界型人格障害、自己愛性人格障害など	
第13回	1/8	人格・行動の異常2	摂食障害	
第14回	1/15	発達・知的障害1	大人と子供の精神科的な違い	
第15回	1/22	発達・知的障害2	精神遅滞、自閉症スペクトラム障害、ADHD等	
履修条件		特になし		
予習・復習		指定しない。授業の中で、適宜指示する		
テキスト		指定しない、授業プリントを配布する。		
参考書・参考資料等		指定しない。授業の中で適宜紹介する。		
学生に対する評価		定期試験80%、学習態度20%		

授業 科目名	臨床薬理学 (Clinical Pharmacology)	履修年次: 必修:理・作2年	単位数: 1単位15時間	担当教員名: 山本達也 [脳神経内科医師] (研究室:仁戸名9)	
		実務経験のある教員による授業科目			コード:RBB224
		〔DP〕 実践に必要な知識, 倫理観とプロフェッショナリズム			
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本授業では理学療法士・作業療法士を中心とした保健医療専門職が習得すべき薬理学の知識、日常臨床でよく使われる薬剤についての作用機序、対象疾患、副作用について習得することを目的とする。					
〔授業の概要〕 薬理学総論から始め、循環器系、消化器系、腎・泌尿器系、血液系、中枢神経系に作用する薬剤について、日常臨床で頻繁に用いられる薬剤と中心に作用機序、対象疾患、副作用を説明する。総合内科専門医、脳神経内科専門医の実務経験に基づいた講義を行う。					
キーワード:循環器系薬剤、消化器系薬剤、腎・泌尿器系薬剤、血液系薬剤、中枢神経系薬剤					
〔授業計画〕					
回数	日付	テーマ	内容		
第1回	10/2	薬理学総論	薬力学、薬物動態学		
第2回	10/9	循環器系	降圧剤、抗不整脈薬		
第3回	10/16	消化器系、代謝・内分泌	消化性潰瘍治療薬、下剤、糖尿病治療薬		
第4回	10/23	腎・泌尿器系	利尿薬、過活動膀胱治療薬、前立腺肥大症治療薬		
第5回	10/30	血液系	抗血小板薬、抗凝固薬、貧血治療薬		
第6回	11/6	中枢神経系	抗精神病薬、睡眠薬、抗てんかん薬、 抗パーキンソン病薬		
第7回	11/13	抗炎症薬	NSAID、ステロイド、抗アレルギー薬		
第8回 前半45分	11/20	まとめ	授業全体のまとめ		
履修条件	生化学総論を履修していることが望ましい。				
予習・復習	授業プリント、教科書の予習・復習をすること。				
テキスト	休み時間の薬理学 第3版 丸山敬 著 講談社				
参考書・参考資料等	はじめの一步のイラスト薬理学 石井邦雄 著 羊土社				
学生に対する評価	定期試験 90%、学習態度 10%				

授業 科目名	老年科学 (Gerontology)	履修年次:	単位数:	担当教員名: 山本 達也 [脳神経内科医師] (研究室:仁戸名9)
		必修:理・作3年	1単位 30時間	
		実務経験のある教員による授業科目	コード:RBB225	
〔DP〕 実践に必要な知識, 倫理観とプロフェッショナリズム				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
<p>高齢者の身体機能と疾患について、専門学会等による老年病についての研究成果などを活用しながら、病態の特性をふまえた観点から教授する。授業では老化に伴った臓器や身体機能の変化とその失調について、さらに高齢者のリハビリテーション医療における問題点と対策を学修する。目標としては</p> <p>1 高齢者に特有の生理的变化や頻度の高い疾患を挙げ、概要を説明できる</p> <p>2 高齢者の理学・作業療法を計画し、それを遂行する課程でどのような事態が想定され、どのように問題を解決すべきかについて概要を説明できる。</p>				
〔授業の概要〕				
<p>老化の意味、高齢者の生理、頻度の多い症候・病態の概要について講義を行う。具体的な症例を提示して教科書的な知識を臨床にどう活かすかについても学修させる。次回の授業時には小テストを行い、教科書の知識の確認・修正・定着を促し、文献からはば広く、深い知識を得る重要性についても自得させる。総合内科専門医、脳神経内科専門医の実務経験に基づいて講義する。</p> <p>キーワード:老化、加齢、老年病、サルコペニア、フレイル</p>				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	
第1回	4/10	老年病総論	高齢化社会の現状と今後の課題	
第2回	4/17	加齢とは	加齢による身体機能変化、フレイル、サルコペニア	
第3回	4/24	免疫系の老化と感染症	加齢による生体防御機構の変化と感染症 誤嚥性肺炎	
第4回	5/1	呼吸器系の老化と疾患	高齢者の非感染性呼吸器疾患	
第5回	5/8	循環器系の老化と疾患	高齢者の心・血管病変、動脈硬化	
第6回	5/15	代謝・内分泌系の老化と疾患	高齢者の糖尿病・脂質異常、内分泌異常	
第7回	5/22	消化器系の老化と疾患 1	高齢者の消化器疾患(消化管)	
第8回	5/29	消化器系の老化と疾患 2	高齢者の消化器疾患(肝胆膵)	
第9回	6/5	腎泌尿器系の老化と疾患 1	高齢者の腎泌尿器疾患	
第10回	6/12	腎泌尿器系の老化と疾患 2	高齢者の排泄障害	
第11回	6/19	神経・感覚器系の老化と疾患 1	パーキンソン病診療の最前線	
第12回	6/26	神経・感覚器系の老化と疾患 2	パーキンソン症候群と脊髄小脳変性症	
第13回	7/3	血液系の老化と疾患	高齢者の血液内科疾患	
第14回	7/10	自己免疫疾患	高齢者の自己免疫疾患	
第15回	7/17	まとめ	全体のまとめ	
履修条件	内科学総論・各論、脳神経内科学総論・各論を履修していることが望ましい。			
予習・復習	予習:教科書の該当部分を熟読 復習:配布プリントと教科書内容の対応確認			
テキスト	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学(第4版) 医学書院			
参考書・参考資料等	特になし。			
学生に対する評価	定期試験 80% 学習態度 20%			

授業 科目名	小児科学 (Pediatrics)	履修年次 :	単位数 :	担当教員名: 高柳 正樹[医師] (非常勤講師室)
		必修:理・作3年	1単位 15時間	
			コード:RBB226	
実務経験のある教員による授業科目				
〔DP〕 倫理観とプロフェッショナリズム、 実践に必要な知識 多職種との協働				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本授業では、療法士として健康と病気の小児を扱うのに必要な小児科学の知識を習得することを目標に、以下のテーマで講義を進めていく。 臓器別小児科学各論 神経系の発達生物学と発達行動学 発達障害に関連する事項				
〔授業の概要〕 授業は講義形式でおこなわれる、小児科学概論には成長と発達の他の小児保健学が含まれる。小児科学各論には感染症が含まれる。神経系の授業には、脳性麻痺を含む行動発達障害が含まれる。小児科医師の実務経験により、小児科の講義に関する学習の支援をおこなう。				
キーワード: 成長と発達				
〔授業計画〕				
回数	日付	テ ー マ	内 容	
第1回	4/9	新生児疾患	新生児疾患について解説	
第2回	4/16	遺伝、奇形、先天代謝異常症	遺伝、遺伝子に関する問題を中心に解説	
第3回	4/23	神経、筋、骨系統疾患 1	小児リハに関連する疾患を中心に解説	
第4回	4/30	神経、筋、骨系統疾患 2	小児リハに関連する疾患を中心に解説	
第5回	5/7	小児感染症	小児感染症について解説	
第6回	5/14	呼吸器、循環器疾患	小児呼吸器疾患、循環器疾患を中心に解説	
第7回	5/21	消化器、内分泌疾患	小児に特有な疾患を中心に解説	
第8回	5/28	アレルギー、血液疾患、腫瘍性疾患	小児に特有な疾患を中心に解説	
第9回	6/4	腎・泌尿器,眼科・耳鼻科疾患	小児に特有な疾患を中心に解説	
第10回	6/11	正常発育・発達およびその評価	正常小児発達とその評価について解説	
第11回	6/18	ASD、ADHDなどの発達障害	発達障害の解説	
第12回	6/25	原始反射、低緊張の評価	原始反射、姿勢反射の説明	
第13回	7/2	事故、虐待、小児救急疾患	小児救急疾患の理解と対応	
第14回	7/9	心身症、重症心身障害児(者)	心身症および重症心身障害児の解説	
第15回	7/16	予防接種、育児相談など小児保健	小児保健に関する問題点	
履修条件	特になし			
予習・復習	予習:テキストにおける授業範囲を一回読む。授業当日配布された資料で復習			
テキスト	医学書院 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学			
参考書・参考資料等	指定しない。授業の中で適宜紹介する			
学生に対する評価	定期試験(90%)、日ごろの学習態度(10%)により、総合的に評価する			

授業科目名	授業科目名： 臨床医学概論 Outline of clinical medicine	履修年次： 必修：理・作3年	単位数： 1単位30時間 コード：RBBB27	担当教員名： 山本 達也 [脳神経内科医師] (研究室：仁戸名9)
	実務経験のある教員による授業科目			
〔DP〕 実践に必要な知識、倫理観とプロフェッショナリズム、コミュニケーション能力				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本授業では、リハビリテーションを実施する際に理解しておくべき症状や病態について、脳神経内科でよくみられる症候を題材として、診断から治療にいたるプロセスの習得を目標とする。 以下のテーマで講義・グループ学習・発表を進めていく。 突然発症の片麻痺、緩徐進行性の物忘れ、手指振戦・動作緩慢、意識障害、急速進行性の四肢麻痺				
〔授業の概要〕 理学療法、作業療法を行う際によく見聞きする症候を題材に、その症候から考えるべき病態、疾患、対処法について学習する。次に、グループ学習・発表を通じて、複数の症状を総合的にとらえる考え方を学ぶ。総合内科専門医、脳神経内科専門医の実務経験に基づいて講義・演習を行う。				
キーワード：臨床医学、症候、病態、診断、治療				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	
第1回	4/10	突然発症の片麻痺(1)	講義(脳血管障害)	
第2回	4/17	突然発症の片麻痺(2)	グループ学習・発表	
第3回	4/24	突然発症の片麻痺(3)	グループ学習・発表(課題レポート提出)	
第4回	5/1	緩徐進行性の物忘れ(1)	講義(認知症)	
第5回	5/8	緩徐進行性の物忘れ(2)	グループ学習・発表	
第6回	5/15	緩徐進行性の物忘れ(3)	グループ学習・発表(課題レポート提出)	
第7回	5/22	手指振戦・動作緩慢(1)	講義(パーキンソン病、パーキンソン症候群)	
第8回	5/29	手指振戦・動作緩慢(2)	グループ学習・発表	
第9回	6/5	手指振戦・動作緩慢(3)	グループ学習・発表(課題レポート提出)	
第10回	6/12	意識障害(1)	講義(脳炎、てんかん)	
第11回	6/19	意識障害(2)	グループ学習・発表	
第12回	6/26	意識障害(3)	グループ学習・発表(課題レポート提出)	
第13回	7/3	急速進行性の四肢麻痺(1)	講義(脊髄炎、ギランバレー症候群)	
第14回	7/10	急速進行性の四肢麻痺(2)	グループ学習・発表	
第15回	7/17	急速進行性の四肢麻痺(3)	グループ学習・発表(課題レポート提出)	
履修条件	神経内科学総論・各論を履修していることが望ましい。			
予習・復習	予習としてテキストを熟読のこと。復習にはノートの見直しを推奨。			
テキスト	「脳神経内科学」 高橋伸佳編・著 理工図書			
参考書・参考資料等	指定しない。授業の中で適宜紹介する。			
学生に対する評価	定期試験(50%)、課題レポート(50%)			

授業 科目名	リハビリテーション医学 Rehabilitation Medicine	履修年次：	単位数：	担当教員名： 金子 徹 [リハビリテーション科医師] (研究室：仁戸名 2)
		必修:理・作3年	1単位30時間	
			コード：RBB308	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識 多職種との協働				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 リハビリテーション医学は多職種チームの協働により、対象となる患者や障害者に社会参加を実現するプロセスである。医療の分野では医学的リハビリテーションに関して必要な知識・技術に基づいたチームアプローチが求められる。下記の授業概要に記載した内容を理解できるようにする。				
〔授業の概要〕理学療法・作業療法に関わる医学的リハビリテーションにおけるチーム医療のあり方、リハビリテーション医療の流れ、各障害の捉え方と評価、治療の流れを学習し、リハビリテーション医学に関する代表的な疾患についてその障害特性の把握に基づいたリハビリテーション医療の展開を理解する。				
キーワード：疾患の理解、障害評価、チームアプローチ				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	
第1回	4/11	リハ医学総論	リハビリテーション医学概論、障害の理解	
第2回	4/18	運動器疾患のリハ医学	障害の理解とリハビリテーション医療の展開	
第3回	4/25	関節リウマチのリハ医学	障害の理解とリハビリテーション医療の展開	
第4回	5/2	脳卒中のリハ医学(1)	脳卒中で生じる障害とその評価	
第5回	5/9	脳卒中のリハ医学(2)	脳卒中に対する急性期リハビリテーション	
第6回	5/16	脳卒中のリハ医学(3)	脳卒中に対する回復期・生活期リハビリテーション	
第7回	5/23	四肢切断後のリハ医学	障害の理解とリハビリテーション医療の展開	
第8回	5/30	脊髄損傷のリハ医学(1)	脊髄損傷で生じる障害とその評価	
第9回	6/6	脊髄損傷のリハ医学(2)	脊髄損傷に対するリハビリテーション医療の展開	
第10回	6/20	末梢神経障害のリハ医学	障害の理解とリハビリテーション医療の展開	
第11回	6/27	内部障害のリハ医学(1)	障害の理解とリハビリテーション医療の展開	
第12回	7/4	内部障害のリハ医学(2)	障害の理解とリハビリテーション医療の展開	
第13回	7/11	小児疾患のリハ医学	障害の理解とリハビリテーション医療の展開	
第14回	7/18	神経難病のリハ医学	障害の理解とリハビリテーション医療の展開	
第15回	7/25	地域リハビリテーション	地域リハビリテーションの展開	
履修条件	特になし			
予習・復習	教科書当該部分の予習、復習にはノートの見直しを推奨。			
テキスト	標準理学療法学・作業療法学 整形外科学第5版			
参考書・参考資料等	標準リハビリテーション医学(医学書院)			
学生に対する評価	定期試験(60%)、課題(10%)、日ごろの学習態度(30%)により、総合的に評価する。			

授業 科目名	理学療法概論 (Principal of Physical Therapy)	履修年次: 必修:理1年	単位数: 1単位30時間	担当教員名: 堀本 佳誉 [理学療法士] (仁戸名研究室10)
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識, 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本授業では、理学療法士としての基本的知識、態度を身につけることを目標に、以下の講義内容に演習形式の講義を加えて、授業を進めていきます。 理学療法の位置づけとその範囲を学ぶ。 理学療法の歴史と関連する法制度を知る。 専門職種としての資質向上のための知識と適正を習得する。				
〔授業の概要〕 理学療法とは何か、理学療法学の倫理・哲学を考え、理学療法の歴史辿ってリハビリテーション医学における理学療法の占める位置や法制度を考える。理学療法の評価および治療体系を学び、基本的な知識と理学療法士としての適性を修得する。千葉県首都圏近郊型特性と農業・漁業中心の地域型特性を踏まえた上で、各々の生活形態の特徴に応じた理学療法の相違も併せて考える。				
キーワード: リハビリテーション、理学療法、運動療法、物理療法、適性				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	
第1回	4/10	ガイダンス	受講に関する注意事項	
第2回	4/17	理学療法の役割と職域	理学療法の役割と職域について学ぶ	
第3回	4/24	理学療法の役割と職域	理学療法の役割と職域についてまとめる	
第4回	5/1	理学療法の対象と疾患	理学療法の対象と疾患について学ぶ	
第5回	5/8	理学療法の対象と疾患	理学療法の対象と疾患についてまとめる	
第6回	5/15	理学療法の治療手段	理学療法の治療手段について学ぶ	
第7回	5/22	理学療法の治療手段	理学療法の治療手段についてまとめる	
第8回	5/29	理学療法とリハビリテーション	理学療法とリハビリテーションについて学ぶ	
第9回	6/5	理学療法とリハビリテーション	理学療法とリハビリテーションについてまとめる	
第10回	6/12	理学療法の診療報酬体系・報酬	理学療法の診療報酬体系・報酬について学ぶ	
第11回	6/19	理学療法の診療報酬体系・報酬	理学療法の診療報酬体系・報酬についてまとめる	
第12回	6/26	理学療法士の資質と適性	理学療法士の資質と適性について学ぶ	
第13回	7/3	理学療法士の資質と適性	理学療法士の資質と適性についてまとめる	
第14回	7/10	千葉県における理学療法	千葉県における理学療法について学ぶ	
第15回	7/17	千葉県における理学療法	千葉県における理学療法についてまとめる	
履修条件	特になし			
予習・復習	復習には配布資料の見直しを推奨。			
テキスト	「理学療法概論」奈良 勲著(医歯薬出版)			
参考書・参考資料等	必要に応じて、適宜紹介する。			
学生に対する評価	レポート(85%)、授業時の学習態度(15%)により、総合的に評価する。			



授業科目名	理学療法管理学 Science of physical therapy management	履修年次: 必修:理 4年	単位数: 2単位 30時間	担当教員名: 室井大佑(仁戸名研究室1) 村永信吾、松田徹(非常勤講師) [いずれも理学療法士]
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識, 生涯にわたる探求心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 理学療法士を取り巻く環境の理解、職場における部門管理(マネジメント&リーダーシップ)を理解する、管理するための測定(安全・効果・満足度)とそのフレームワークを理解する、専門職としての学びと組織学習について理解する、就業規則と労務管理、コンフリクトとハラスメントの理解する、診療報酬・介護報酬の仕組みを理解する、臨床における診療工程を理解する				
〔授業の概要〕 理学療法管理学では、保健・医療・介護領域において、質の高い理学療法を提供し続けるために必要な継続的改善を推進するための部門マネジメント(プロセス管理、時間管理、人材管理など)を学ぶ。加えて職業人としての働き方及び取組み(個人のマネジメント)コンフリクト等への対応について学ぶ。単なる管理者のための管理学ではなく、一般職員としても期待される管理能力についても理解する。				
キーワード: マネジメント、リーダーシップ、医療の質、人材育成、職場環境				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	10/2	理学療法士を取り巻く環境	医療介護を取り巻く環境の変化の理解	村永信吾
第2回	10/2	理学療法管理学とは	マネジメントとリーダーシップ	村永信吾
第3回	10/9	医療の質とは	ドナベディアンモデル	村永信吾
第4回	10/9	管理することは測定すること	管理指標の理解	村永信吾
第5回	10/16	基本的診療工程の理解	時間管理とプロセス管理	村永信吾
第6回	10/16	基本的診療工程の理解	安全管理、感染管理の理解	村永信吾
第7回	10/23	医療介護制度	医療保険・介護保険制度の理解	松田徹
第8回	10/23	医療介護制度	理学療法士職域拡大	松田徹
第9回	10/30	キャリア構築	キャリアとは何か	松田徹
第10回	10/30	キャリア構築	職場教育の理解と進め方	松田徹
第11回	11/5	研究倫理・職業倫理	倫理を理解する	室井大佑
第12回	11/5	研究的思考の重要性	研究的思考の重要性を理解する	室井大佑
第13回	11/12	生涯学習	協会等の生涯学習の意義	室井大佑
第14回	11/20	労務管理	労働法と就業規則	村永信吾
第15回	11/20	労務管理	全体総括 村永信吾	村永信吾
履修条件	特になし			
予習・復習	予習: キーワードに対して事前に調べておく、復習: 毎回前回講義の確認を行う			
テキスト	配布資料			
参考書・参考資料等	理学療法管理学 監修 植松光俊(南江堂) リハビリテーション管理・運営実践ガイドブック 編集 金谷さとみ他 メジカルビュー			
学生に対する評価	レポート提出(村永40%、松田・室井40%)、学習態度(20%)			

授業 科目名	運動療法学 Therapeutic Exercise	履修年次:	単位数:	担当教員名: 堀本佳誉〔理学療法士〕 (仁戸名研究室10) 稲垣武〔理学療法士〕
		必修: 理2年	2単位 30時間 コード: RPB201	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 運動療法の基礎となる隣接領域の知識を習得し、運動が身体の諸機能に及ぼす影響を説明できるようになる。				
〔授業の概要〕 理学療法の中核的治療手段である運動療法の科学的根拠について学ぶ。運動療法の基盤となる運動学、運動生理学、神経科学、トレーニング科学について理解を深め、機能・構造障害に対する運動療法を展開していくための基礎知識を習得する。				
キーワード: 運動療法総論、機能・構造障害				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	4/9	ガイダンス 概論	受講に関する注意事項 運動療法とは	堀本
第2回	4/16	運動	運動の起こる仕組み	堀本
第3回	4/23	運動	随意運動発現と姿勢制御のメカニズム	堀本
第4回	4/30	運動学習・指導	運動学習、動機づけ	堀本
第5回	5/7	関節可動域	関節可動域制限に対する運動療法	堀本・稲垣
第6回	5/14	関節可動域	関節可動域制限に対する運動療法の実際(上肢)	堀本・稲垣
第7回	5/21	関節可動域	関節可動域制限に対する運動療法の実際(下肢)	堀本・稲垣
第8回	5/28	関節可動域	関節可動域制限に対する運動療法の実際(体幹)	堀本・稲垣
第9回	6/4	抵抗運動	筋パフォーマンス向上のための抵抗運動	堀本・稲垣
第10回	6/11	抵抗運動	筋パフォーマンス向上のための抵抗運動(上肢)	堀本・稲垣
第11回	6/18	抵抗運動	筋パフォーマンス向上のための抵抗運動(下肢)	堀本・稲垣
第12回	6/25	抵抗運動	筋パフォーマンス向上のための抵抗運動(体幹)	堀本・稲垣
第13回	7/2	バランス	バランス能力改善のための運動療法	堀本・稲垣
第14回	7/9	バランス	バランス能力改善のための運動療法	堀本・稲垣
第15回	7/16	バランス	バランス能力改善のための運動療法	堀本・稲垣
履修条件	特になし			
予習・復習	予習としてテキストを熟読のこと。復習は配布資料を基に、適宜テキストを参照する。			
テキスト	「運動療法大全 基礎編」第6版 ガイアブックス			
参考書・参考資料等	必要に応じて、適宜紹介する。			
学生に対する評価	定期試験(85%)、授業時の学習態度(15%)により、総合的に評価する。			

授業 科目名	理学療法評価学 Physical Therapy Assessment	履修年次:	単位数:	担当教員名: 堀本佳誉〔理学療法士〕 (仁戸名研究室10) 坂崎純太郎〔理学療法士〕
		必修:理2年	2単位 30時間	
			コード: RPB202	
実務経験のある教員による授業科目				
〔DP〕 実践に必要な知識, 健康づくりの実践, コミュニケーション能力				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法における測定および評価の意義・位置づけと構成要素を説明できる。</li> <li>・関節可動域検査、整形外科的検査の意義および方法を説明でき、健常者に対し適切に実践できる。</li> <li>・統合と解釈について理解し、その方法を説明できる。</li> </ul>				
〔授業の概要〕				
理学療法を行う上で頻度が高く広汎な疾患に共通して行われる関節可動域検査、疼痛評価、姿勢評価、歩行評価について、基本的な実施方法とそこから得られる生体情報の意味、異常値などについて理解を図る。				
キーワード: 理学療法、測定、評価、関節可動域検査、疼痛評価、姿勢評価、歩行評価				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	4/11	総論 スタンダードプリコーション	オリエンテーション スタンダードプリコーションの実施	堀本・坂崎
第2回	4/11	バイタルチェック	血圧・呼吸・脈拍	堀本・坂崎
第3回	4/18	触診	ランドマークの触診	堀本・坂崎
第4回	4/18	関節可動域測定	股関節の関節可動域測定	堀本・坂崎
第5回	4/25	関節可動域測定	膝関節・足関節の関節可動域測定	堀本・坂崎
第6回	4/25	関節可動域測定	肩関節の関節可動域測定	堀本・坂崎
第7回	5/2	関節可動域測定	肘関節・前腕・手関節の関節可動域測定	堀本・坂崎
第8回	5/2	関節可動域測定	下肢の関節可動域測定復習	堀本・坂崎
第9回	5/9	関節可動域測定	上肢の関節可動域測定復習	堀本・坂崎
第10回	5/9	関節可動域測定	まとめ	堀本・坂崎
第11回	5/16	姿勢	姿勢の評価	堀本・坂崎
第12回	5/16	姿勢	姿勢の評価	堀本・坂崎
第13回	5/23	関節可動域測定	実技テスト	堀本・坂崎
第14回	5/23	関節可動域測定	実技テスト	堀本・坂崎
第15回	5/30	歩行	量的な歩行評価	堀本・坂崎
履修条件	特になし			
予習・復習	予習として、テキストの該当箇所を読んでください。復習として、テキストと配布資料の確認および実技練習の実施により、知識・技術の定着をはかってください。			
テキスト	理学療法評価法学 第6版(金原出版)			
参考書・参考資料等	指定しない。授業の中で適宜紹介する。			
学生に対する評価	実技・筆記試験(90%)、学習態度(10%)により、総合的に評価する。			

授業 科目名	理学療法評価学演習 Practice of Physical Therapy Assessment	履修年次: 必修:理2年	単位数: 1単位30時間	担当教員名: 室井大佑(仁戸名研究室1)、 江戸優裕(仁戸名研究室12)、 稲垣 武(仁戸名東校舎1) [いずれも理学療法士]
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識, 健康づくりの実践				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 疼痛評価、形態測定、徒手筋力検査法の理論と実施方法を理解するとともに基本的技術を習得する。				
〔授業の概要〕 対象者の症状や障害を把握するための理学療法評価の理論と技術を身につける授業である。疾患に関わらず普遍的に用いられる疼痛評価、形態測定、徒手筋力検査法について講義と実技を通じて学ぶ。担当教員の理学療法士としての実務経験に基づいてこれらの学習支援を行う。				
キーワード: 理学療法評価、検査・測定、疼痛評価、形態測定、徒手筋力検査				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	5/30	オリエンテーシ 疼痛評価	受講にあたっての注意事項と成績評価 疼痛の評価	室井
第2回	6/6	形態測定	体格指数、四肢長・肢節長、周径	室井・稲垣
第3回	6/6	形態測定	〃	室井・稲垣
第4回	6/13	実技試験		室井・稲垣
第5回	6/13	徒手筋力検査	体幹の徒手筋力検査	江戸・稲垣
第6回	6/20	徒手筋力検査	上肢の徒手筋力検査(主に肩甲骨)	江戸・稲垣
第7回	6/20	徒手筋力検査	〃 (主に肩関節)	江戸・稲垣
第8回	6/27	徒手筋力検査	〃 (主に肘関節・前腕)	江戸・稲垣
第9回	6/27	徒手筋力検査	〃 (主に手関節・手指)	江戸・稲垣
第10回	7/4	徒手筋力検査	下肢の徒手筋力検査(主に股関節)	江戸・稲垣
第11回	7/4	徒手筋力検査	〃 (〃)	江戸・稲垣
第12回	7/11	徒手筋力検査	〃 (主に膝関節)	江戸・稲垣
第13回	7/11	徒手筋力検査	〃 (主に足関節)	江戸・稲垣
第14回	7/18	実技試験		江戸・稲垣
第15回	7/18	総括		江戸
履修条件	特になし。実技を行うため運動着で出席すること。			
予習・復習	予習は機能解剖学、運動学、理学療法評価学の内容を再確認し、復習は授業内容を振り返ること。			
テキスト	新・徒手筋力検査法(協同医書出版)			
参考書・参考資料等	授業内で適宜紹介する。			
学生に対する評価	授業態度(20%)・筆記試験(40%)・実技試験(40%)			

授業 科目名	理学療法評価学 (Physical Therapy Assessment )	履修年次: 必修:理2年	単位数: 1単位15時間	担当教員名: 堀本佳誉 [理学療法士] (仁戸名研究室10)
		実務経験のある教員による授業科目		
		坂崎純太郎 [理学療法士]		
〔DP〕 実践に必要な知識、 コミュニケーション能力、 倫理観とプロフェッショナリズム				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 神経系障害に対する検査・測定の基本的手技を実施し、その結果を評価することを目標に、以下のテーマで講義を進めていく。 神経系の障害に由来する神経学的徴候を説明することが出来る。 各神経学的徴候に対する検査・測定の基本的手技を実施することが出来る。 検査・測定の結果を記載し、評価することが出来る。 各症状に対する理学療法の治療について理解する。				
〔授業の概要〕 理学療法の対象となる脳血管障害やパーキンソン等の中枢神経系、神経・筋疾患を中心とした障害に対して、理学療法の治療の実際と科学的根拠について理解する。本科目は、講義に加えて、評価から得られた結果の考察や治療計画立案などの演習形式も包括し、時期別、部位別、重症度別等に応じた理学療法の治療について、基本的な問題点を解決する技術と、科学的根拠を理解する。 キーワード: 神経系障害、検査、測定、評価				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	10/1	概論 神経系障害評価1	神経系障害における理学療法評価の流れ 感覚検査・知覚検査	堀本・坂崎
第2回	10/8	神経系障害評価2	反射検査・病的反射検査	堀本・坂崎
第3回	10/22	神経系障害評価3	協調性検査	堀本・坂崎
第4回	10/29	神経系障害評価4	筋緊張検査	堀本・坂崎
第5回	11/5	神経系障害評価5	脳神経検査、高次脳機能検査	堀本・坂崎
第6回	11/12	神経系障害評価6	運動麻痺検査	堀本・坂崎
第7回	11/19	神経系障害評価7	SIAS、 Fugl-Meyer Assessment	堀本・坂崎
第8回	11/26	神経系障害評価8	バランステスト	堀本・坂崎
履修条件	動きやすい服装、膝・肘を露出できる服装で参加してください。			
予習・復習	各機能に関する解剖学および生理学的な知識を復習しておくこと。			
テキスト	理学療法評価法学 第6版(金原出版) 症例動画でわかる理学療法臨床推論 統合と解釈実践テキスト(羊土社)			
参考書・参考資料等	指定しない。授業の中で適宜配布・紹介する。			
学生に対する評価	筆記試験(90%)、学習態度(10%)により、総合的に評価する。			

授業 科目名	理学療法評価学 (Physical Therapy Assessment )	履修年次: 必修:理2年	単位数: 1単位30時間 コード:RPB303	担当教員名: 堀本 佳誉 (仁戸名研究室10) 室井大佑、大谷拓哉、 稲垣武、坂崎純太郎
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識、 コミュニケーション能力、 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 臨床現場の雰囲気慣れ、理学療法評価学で学習した成果を実践することを目的とします。 理学療法評価学で学んだ評価方法の確認をします。 現場での正確な計測ができるよう、経験を積みます。				
〔授業の概要〕 理学療法評価学 ・ 、理学療法評価学演習をはじめ、整形外科や神経科学の総論と各論で学習してきた身体機能の構造やはたらきを臨床施設の利用者さんを通して、測定の意義や理解を深める。運動器系障害や中枢神経系障害を問わず、施設の利用者さんと直接触れる機会を設け、測定する前後にペーパー・ペーシェントなどを使った検査測定と評価をシミュレーションし、理学療法評価法を理解する。3学年の臨床実習 に向けての取り組みの位置づけである。 キーワード: 検査・測定、評価方法の確認				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	11/21	オリエンテーション	講義概要の説明、実習の心得、実技練習	堀本佳誉
第2回	11/28	評価の実際	実技練習	堀本佳誉
第3回	11/28	評価の実際	実技練習	堀本佳誉
第4回	12/5	評価の実際	評価の一連の流れのデモンストレーション	室井大佑
第5回	12/5	評価の実際	症例動画の提示と解釈	室井大佑
第6回	12/12	評価の実際	評価のリストアップと役割分担	室井大佑
第7回	12/12	評価の実際	評価の一連の流れの実技練習	室井大佑
第8回	12/19	評価の実際	当事者の方への評価	全教員
第9回	12/19	評価の実際	当事者の方への評価	全教員
第10回	1/23	評価の復習	当事者の方への評価の復習	全教員
第11回	1/23	評価の復習	当事者の方への評価の復習	全教員
第12回	1/30	評価結果の記録と解釈	評価結果の記録の方法とその解釈	室井大佑
第13回	1/30	報告書の作成	当事者の方の評価結果の報告書の作成	室井大佑
第14回	2/6	プレゼンテーション	評価結果と解釈のプレゼンテーション	室井大佑
第15回	2/6	プレゼンテーション	評価結果と解釈のプレゼンテーション	室井大佑
履修条件	臨床実習の服装・身なりで臨むこと。評価器具を準備すること。			
予習・復習	シラバスに沿って、実習を行います。			
テキスト	新・徒手筋力検査法(第9版)、理学療法評価法学 第6版(金原出版)			
参考書・参考資料等	授業の中で適宜紹介します。			
学生に対する評価	レポート(85%)、授業時の学習態度(15%)により、総合的に評価する。			

授業 科目名	理学療法評価学 (画像評価) Physical Therapy Assessment : Assessment using Images	履修年次: 必修 理 3 年	単位数: 1 単位 15 時間	担当教員名: 室井大佑(仁戸名研究室 1)、 江戸優裕(仁戸名研究室 12)、 稲垣 武(仁戸名東校舎 1)、 [いずれも理学療法士]
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識, 健康づくりの実践				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本授業では、理学療法評価の一環としての画像の見方を学び、以下の到達目標を達成する。 レントゲン画像から理学療法実施上の留意点について説明できる。 CT・MRI 画像から理学療法実施上の留意点について説明できる。 超音波エコー画像から理学療法実施上の留意点について説明できる。				
〔授業の概要〕 医師が行う画像診断とは異なり、理学療法士が行う運動機能評価の観点での画像の見方を解説する。臨床で用いられることが多い画像検査装置の概要、正常画像と異常画像の相違、そして各種画像所見から推察される機能障害を学ぶことにより、理学療法評価としての側面を有する画像の捉え方を理解する。担当教員の理学療法士としての実務経験に基づいてこれらの学習支援を行う。				
キーワード: レントゲン・CT・MRI・超音波・運動器疾患・中枢神経疾患・内部疾患				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	10/2	オリエンテーション・総論	受講にあたっての注意事項と成績評価 理学療法士が行う画像評価の意義 各種画像検査法の基本(レントゲン・ CT・MRI など)	江戸優裕
第2回	10/9	運動器疾患	運動器疾患における画像評価	江戸優裕
第3回	10/16	運動器疾患	"	江戸優裕
第4回	10/23	中枢神経疾患	中枢神経疾患における画像評価	室井大佑
第5回	10/30	中枢神経疾患	"	室井大佑
第6回	11/6	中枢神経疾患	"	室井大佑
第7回	11/13	内部疾患	内部疾患における画像評価	稲垣 武
第8回	11/20	内部疾患	"	稲垣 武
履修条件	特になし			
予習・復習	人体の構造や機能解剖学で学んだ解剖学(骨・筋・関節・肺・心臓・脳など)を三次元的にイメージしながら復習しておくこと。			
テキスト	配布資料、画像評価(医学書院)			
参考書・参考資料等	リハビリに直結する!運動器画像の見かた(羊土社)、リハで活用!わかりやすい運動器エコー(メジカルビュー)、リハに役立つ脳画像(メジカルビュー)、リハビリテーションに活かす呼吸・循環モニタリング(メジカルビュー)			
学生に対する評価	授業態度(20%)・筆記試験(80%)			

授業 科目名	日常生活活動学 (Activities of Daily Living)	履修年次:	単位数:	担当教員名: 稲垣武 [理学療法士] (東校舎1)
		必修:理2年	2単位30時間	
			コード:RPB204	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕III 実践に必要な知識				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 日常生活活動(ADL)の概念および評価を理解できる。 健常者の一般的な動作の方法やパターンについて理解できる。 各種歩行補助具や福祉用具の使用方法について理解できる。 一部の疾患により活動制限がある患者に対する生活活動指導の進め方について理解できる。				
〔授業の概要〕 本授業では、理学療法の評価・治療立案・目標設定において重要な位置づけとなる日常生活活動(ADL)について講義形式で学習する。その概念や一般的な動作パターン、具体的な評価方法、環境の工夫や福祉用具等について理解し、一部の疾患が日常生活に及ぼす影響を含めて学習することで、後期の「日常生活活動学演習」に必要な知識を身につける。				
キーワード: ADL、ICF、起居・移動動作、住環境整備				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	
第1回	4/11	ADLの概念	ADLの定義、障害構造、ADLとQOL	
第2回	4/18	起居・移動動作	運動学的視点、基本的な姿勢	
第3回	4/25	起居・移動動作	寝返り、起き上がり	
第4回	5/2	起居・移動動作	立ち上がり、移乗動作	
第5回	5/9	起居・移動動作	歩行、四つ這い、いざり、階段昇降	
第6回	5/16	移動に関連した補助具	歩行補助具、車いす	
第7回	5/23	セルフケア	食事、整容、更衣、排泄、入浴など	
第8回	5/30	セルフケアの補助具	福祉用具、自助具	
第9回	6/6	ADL評価の総論	ADL評価の意義・目的、方法	
第10回	6/13	パーセルインデックス(BI)	BIの歴史、特徴、評価項目	
第11回	6/20	機能的自立度評価法(FIM)	FIMの歴史、特徴、評価項目	
第12回	6/27	生活環境	住宅環境の評価と整備	
第13回	7/4	疾患別ADL	呼吸器疾患のADL	
第14回	7/11	疾患別ADL	循環器疾患のADL	
第15回	7/18	まとめ	講義全体の総括	
履修条件	1年時配当の「リハビリテーション専門基礎科目」および「理学療法概論」の単位が修得済であること。			
予習・復習	参考書の関連領域を読んで予習・復習を行うこと。			
テキスト	特になし。			
参考書・参考資料等	標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学(医学書院) Closslink 理学療法学テキスト 日常生活活動学(MEDICAL VIEW)			
学生に対する評価	定期試験(85%)、学習態度(15%)により総合的に評価する。			



授業科目名	日常生活活動学演習 (Practice for Activities of Daily Living)	履修年次:	1 単位 30 時間	担当教員名: 大谷拓哉 [理学療法士] (仁戸名研究室 11) 江戸優裕 [理学療法士] 室井大佑 [理学療法士]
		必修: 理 2 年	コード: RPB304	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識, 健康づくりの実践				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 寝返り、起き上がりなど基本動作や食事や排泄までも含めた日常生活活動 (ADL) の知識について演習を通して理解することを目標にします。併せて、ADL 評価、基本動作の指導方法、介助方法などを修得します。 日常生活活動を観察により分析し、説明できる。 日常生活活動における動作や活動の評価方法を修得する。 日常生活活動の指導、介助の要点を理解する。 全ての単元を理学療法士の実務経験のある教員が担当します。				
〔授業の概要〕 寝返り、起き上がりなどの基本動作や食事や排泄等までも含めた日常生活活動(ADL)について演習を通して理解をする。ADL についての基本的評価技術や基本動作方法の実践、対象者への介助方法などを修得する。本科目は学生相互の実技実習を取り入れた演習形式により、FIM、Barthel Index などの基本的評価方法や寝返り、起き上がり、車椅子移乗などの動作方法と介助方法を体験し、学生が ADL 訓練を臨機応変に工夫する能力を身につける。また脳血管疾患や脊髄損傷、関節リウマチなどの代表的疾患について演習し、各疾患における ADL 訓練や指導方法を理解する。 キーワード: ADL・脳血管障害・パーキンソン病・脊髄損傷・関節リウマチ				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第 1 回	10/3	ADL 評価の実際 1	Barthel Index を用いた評価の実際	大谷拓哉
第 2 回	10/3	ADL 評価の実際 2	FIM を用いた評価の実際	大谷拓哉
第 3 回	10/10	起居・移動動作の実際 1	起居動作 1	大谷拓哉
第 4 回	10/10	起居・移動動作の実際 2	起居動作 2、歩行動作 1	大谷拓哉
第 5 回	10/17	起居・移動動作の実際 3	歩行動作 2	大谷拓哉
第 6 回	10/17	起居・移動動作の実際 4	車いす操作	大谷拓哉
第 7 回	10/24	疾患別 ADL	脊髄損傷 1	室井大佑
第 8 回	10/24	疾患別 ADL	脊髄損傷 2	室井大佑
第 9 回	10/31	疾患別 ADL	脳卒中 1	室井大佑
第 10 回	10/31	疾患別 ADL	脳卒中 2	室井大佑
第 11 回	11/7	疾患別 ADL	大腿骨頸部骨折	江戸優裕
第 12 回	11/7	疾患別 ADL	下肢切断	江戸優裕
第 13 回	11/14	疾患別 ADL	関節リウマチ	江戸優裕
第 14 回	11/14	疾患別 ADL	パーキンソン病	室井大佑
第 15 回	11/21	まとめ	講義全体のまとめ	大谷拓哉
履修条件	特になし			
予習・復習	予習として各単元のテーマについて参考書等を確認してください。復習は講義内容を整理してください。			
テキスト	特になし			
参考書・参考資料等	「計測法入門 計り方・図る意味」 協同医書出版			
学生に対する評価	課題 (80%)、学習態度 (20%) により総合的に評価する。			

授業 科目名	物理療法学 (Electrophysical Agents)	履修年次: 必修:理学2年	単位数: 1単位 15時間 コード: RPB205	担当教員名: 科目責任者 江戸優裕 (仁戸名研究室12) 大谷拓哉(仁戸名研究室11) 稲垣 武(仁戸名東校舎1) 坂崎純太郎(仁戸名助教室) [いずれも理学療法士]
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識, 健康づくりの実践				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 代表的な物理療法(温熱療法・寒冷療法・光線療法・超音波療法・電気刺激療法・牽引療法・水治療法など)の種類、およびそれらの生理学的作用や適応・禁忌を理解する。				
〔授業の概要〕 人体の機能(生理学)で学んだ知識を基礎とし、物理療法を安全かつ効果的に実施するための基本的知識を身につける授業である。代表的な物理療法を取り上げ、その生理学的作用を踏まえて適応・禁忌を学ぶ。担当教員の理学療法士としての実務経験に基づいてこれらの学習支援を行う。				
キーワード: 温熱療法、寒冷療法、光線療法、超音波療法、電気刺激療法、牽引療法、水治療法				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	10/3	オリエンテーション 総論	受講にあたっての注意事項と成績評価 物理療法の定義・歴史、物理療法と疼痛など	江戸優裕
第2回	10/10	温熱療法	温熱療法の基礎と生理学的作用	大谷拓哉
第3回	10/17	寒冷療法 水治療法	寒冷療法・水治療法の基礎と生理学的作用	坂崎純太郎
第4回	10/24	光線療法 超音波療法	光線療法・超音波療法の基礎と生理学的作用	江戸優裕
第5回	10/31	電気刺激療法 バイオフィードバック療法 ロボットリハビリテーション	電気刺激療法・バイオフィードバック療法・ロボットリハビリテーションの基礎と生理学的作用	坂崎純太郎
第6回	11/7	牽引療法 圧迫療法	牽引療法・圧迫療法の基礎と生理学的作用	稲垣武
第7回	11/14	振動刺激療法 衝撃波療法 徒手療法	振動刺激療法・衝撃波療法・徒手療法の基礎と生理学的作用	江戸優裕
第8回	11/21	総括		江戸優裕
履修条件		特になし。実技を行うため運動着で出席すること。		
予習・復習		予習は人体の機能(生理学)の内容を再確認し、復習は授業内容を振り返ること。		
テキスト		配布資料、「物理療法学-Crosslink 理学療法学テキスト-」吉田英樹編(メジカルビュー)		
参考書・参考資料等		物理療法学(医学書院) 物理療法(羊土社) EBM物理療法(医歯薬出版)		
学生に対する評価		筆記試験(80%)・日ごろの学習態度(20%)		

授業 科目名	物理療法学演習 (Practice of Electrophysical Agents)	履修年次: 必修:理2年	単位数: 1単位 30時間	担当教員名: 科目責任者 江戸優裕 (仁戸名研究室12) 大谷拓哉(仁戸名研究室11) 稲垣 武(仁戸名東校舎1) 坂崎純太郎(仁戸名助教室) [いずれも理学療法士]
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識, 健康づくりの実践				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 代表的な物理療法(温熱療法・寒冷療法・光線療法・超音波療法・電気刺激療法・牽引療法・水治療法など)の実施方法を理解するとともに基本的技術を習得する。				
〔授業の概要〕 物理療法学で学んだ知識を基礎とし、物理療法を安全かつ効果的に実施するための基本的技術を身につける授業である。代表的な物理療法を取り上げ、適切な実施方法について講義と実技を通じて学ぶ。担当教員の理学療法士としての実務経験に基づいてこれらの学習支援を行う。				
キーワード: 温熱療法、寒冷療法、光線療法、超音波療法、電気刺激療法、牽引療法、水治療法				
〔授業計画〕				
回数	日付	テ ー マ	内 容	担当
第1回	10/3	オリエンテーション 総論	受講にあたっての注意事項と成績評価 物理療法の定義・歴史、物理療法と疼痛など	江戸優裕
第2回	10/10	温熱療法	ホットパック/パラフィン浴	大谷拓哉
第3回	10/17	温熱療法	超短波/極超短波	江戸優裕
第4回	10/24	寒冷療法 水治療法	アイスパック/持続冷却装置/極低温療法など 部分浴(渦流浴/気泡浴)/全身浴/交代浴	坂崎純太郎
第5回	10/31	光線療法	赤外線/レーザー/紫外線	江戸優裕
第6回	11/7	超音波療法	超音波	江戸優裕
第7回	11/14	電気刺激療法	治療的電気刺激/経皮的電気神経刺激/干渉 電流刺激	坂崎純太郎
第8回	11/21	バイオフィードバック療法 ロボットリハビリテーション	筋電図バイオフィードバック/機能的電気刺激 ロボットリハビリテーション	坂崎純太郎
第9回	11/28	牽引療法・圧迫療法	頸椎牽引/腰椎牽引、持続的圧迫/間欠的圧迫	稲垣武
第10回	12/5	振動刺激療法 衝撃波療法	局所振動/全身振動 衝撃波(ESWT)	江戸優裕
第11回	12/12	徒手療法	筋膜リリース/関節・軟部組織リリース	江戸優裕
第12回	12/19	実技練習		江戸優裕
第13回	1/9	実技練習		江戸優裕
第14回	1/23	実技試験		全員
第15回	1/30	実技試験		全員
履修条件	特になし。実技を行うため運動着で出席すること。			
予習・復習	予習は物理療法学の内容を再確認し、復習は授業内容を振り返ること。			
テキスト	配布資料、「物理療法学-Crosslink 理学療法士用テキスト-」吉田英樹編(メジカ出版)			
参考書・参考資料等	物理療法学(医学書院) 物理療法(羊土社) EBM 物理療法(医歯薬出版)			
学生に対する評価	実技試験(80%)・日ごろの学習態度(20%)			

授業 科目名	義肢装具学 Prosthetics and Orthotics	履修年次: 必修:理 3年	単位数: 2単位 30時間	担当教員名: 科目責任者 室井大佑 (仁戸名研究室1)[理学療法士]、 高橋慎也(仁戸名非常勤講師室) [義肢装具士]
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識、多職種との協働、生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 1. 義肢の適応となる疾患、障害が説明できる。 2. 義肢の定義、種類、名称について説明ができる。 3. 義肢を必要とする対象者の評価、装着、訓練を実践できる。				
〔授業の概要〕 本授業では、四肢の欠損に用いられる義肢(義手・義足)について理解を深めるために、これらを必要とする対象者とその定義、種類、名称などについて学ぶ。また、義肢を必要とする対象者を評価し、訓練するための基礎的な知識と技術を習得するために、義肢の評価方法、訓練方法などについて学ぶ。				
キーワード: 義手、大腿義足、下腿義足、特殊義足				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	4/9	ガイダンス・義肢装具総論	シラバス説明・義肢装具総論	室井大佑
第2回	4/9	義肢概論	義肢の分類、切断レベル、断端管理	室井大佑
第3回	4/16	下腿義足	下腿義足ソケットの種類、構成要素、足部	室井大佑
第4回	4/16	大腿義足	大腿義足ソケットの種類、構成要素、膝継手	室井大佑
第5回	4/23	義足部品(義足足部等)	義足足部の構造と機能を学ぶ	高橋慎也
第6回	4/23	下腿切断者の身体評価	下腿切断者をモデルに評価方法を学ぶ	高橋慎也
第7回	4/30	下腿義足の適合評価	下腿切断者をモデルに適合評価方法を学ぶ	高橋慎也
第8回	4/30	下腿義足の装着訓練	下腿切断者をモデルに装着訓練方法を学ぶ	高橋慎也
第9回	5/7	義足部品(義足膝継手等)	義足膝継手の構造と機能を学ぶ	高橋慎也
第10回	5/7	大腿切断者の身体評価	大腿切断者をモデルに評価方法を学ぶ	高橋慎也
第11回	5/14	大腿義足の適合評価	大腿切断者をモデルに適合評価方法を学ぶ	高橋慎也
第12回	5/14	大腿義足の装着訓練	大腿切断者をモデルに装着訓練方法を学ぶ	高橋慎也
第13回	5/21	下肢切断者のプログラム	断端管理、義足の歩行評価	室井大佑
第14回	5/21	特殊義足	サイム義足、膝義足、股義足の種類	室井大佑
第15回	5/28	義手	義手の種類、機能による分類と特徴	室井大佑
履修条件	特になし			
予習・復習	予習は、各回の該当内容を熟読のこと。復習はノートと配布資料の見直しを推奨。			
テキスト	PT・OT ビジュアルテキスト第2版 高田治実 他、羊土社			
参考書・参考資料等	義肢装具のチェックポイント第9版 赤井正美 他、医学書院、理学療法テキスト 義肢学、中山書店			
学生に対する評価	評価内容は学習態度(15%)、定期試験(85%)により行う。			